



古石

美唄ダム 多彩な用途に

生まなぶん

電子版の教育コーナー

道新先生

検索



川をせき止めて水をためるダム。ダムという巨大な構築物をイメージしますが、ダムの高さが15メートル未満のものため池と呼ばれます。北海道では明治半ばに峰延(美唄)で水田に水を引くため池が造ら

北の事始め

発祥の地あれこれ

フリーライター 坂本工



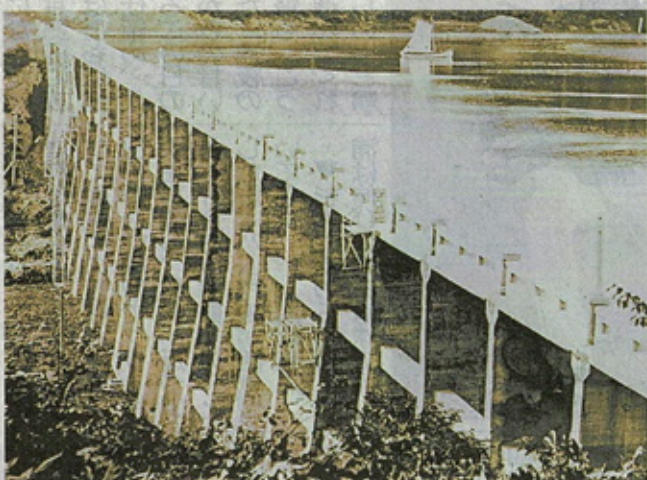
れ、その後、農業や発電などに使うダムが各地で建設されていきました。現在、道内には全国最多の189基のダムがあります。日本では農業用水の渇水を防ぐため、7世紀前半から、ため池が造られたとされます。日本の国土は平地が30%程度しかなく、急峻なため、降った雨をためる工夫をしなければ水不足に陥ることなどが理由です。

「明治以降、こうした条件の下で『富国強兵』を図り、全国で主に利水のダムが造られました。それらは農業用水や水道水、工業用水を必要に応じて供給で

美唄市にある峰延二号川ため池(2018年撮影、北海道改良区岩見沢事業所提供)

60 ダム

農業、水道、発電 多彩な用途



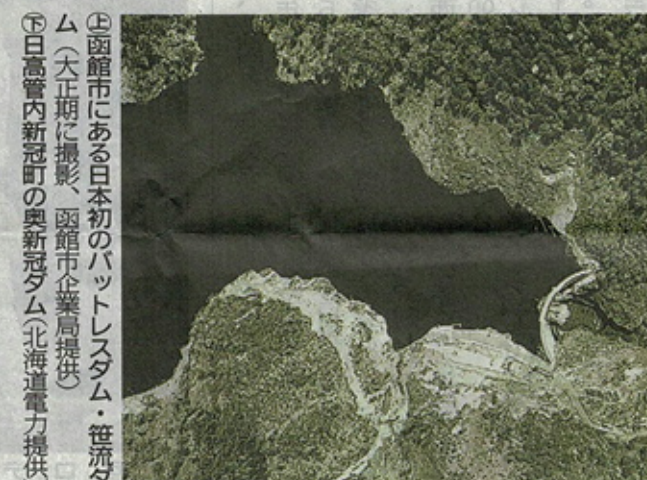
土地収用巡り裁判も

きるようにためる役割がありました。ダムの高低差を利用して電気を作る発電ダムもあります」と語るのは、法政大デザイン工学部の溝淵利明教授(60)です。

北海道の場合を見てみましょう。「郷土史 峰樺」(峰樺部落連合会など)によると、道内で最初のため池は、美唄市の峰延二号川ため池です。北海道史研究協議会の白戸仁康さん(83)は「同書に、神山惣左衛門という空知集治監(現在の刑務所)の作業指導員が二号川沿いでコメ作りを志し、1888年(明治21年)から上流部で大木を切り倒し

て敷き並べ、土をかぶせて川をせき止めた。やがて小規模なため池が姿を現し、拡大工事に発展した経緯が記されています」と説明します。こうして空知・上川地方に稲作が広がり、水田面積が増えるに伴って、1913年(大正2年)に道庁の東根岡第一ダム(旭川)が竣工しました。土で堤体を造った高さ17

98年に運用を開始した日高管内平取町の二風谷ダムは、土地の収用を巡って裁判が行われました。原告の故萱野茂さんの次男で、萱野茂・二風谷アイヌ資料館の萱野志朗館長(62)は「いまはダムの底に眠る場所、かつて舟下ろしの伝統儀式『チフサンケ』が行われていました。アイヌ文化にとって土地はそれぞれに固有の意味をもつのです」と語ります。「二風谷ダム裁判で札幌地裁は、アイヌ民族を先住民族と認め、伝統的な文化を享有する権利」も認めて土地の収用を違法としました。近年は異常気象が頻発し、ダムの治水機能が見直されています。自然や文化とダムがどのように共生するのが望ましいのかを、考えさせられます。



②函館市にある日本初のバットレスダム・笹流ダム(大正期に撮影、函館市企業局提供)
③日高管内新冠町の奥新冠ダム(北海道電力提供)